

令和4年度第3回八雲町総合開発委員会

【開催日時・場所】

令和4年11月14日（月） 午後1時30分～午後3時30分
八雲町役場 第1・2会議室

【出席者】

別紙名簿のとおり

【内容】

1 開会

2 町長挨拶

新型コロナウイルス感染症も収束に向かうかと思いきや増えている状況である。私自身も出張が多く心配しており、簡易検査を毎日行っている。11月は国の予算が決定する時期のため、町の陳情を町村会や様々な部署で行っている状況である。感染が続いている中、皆さんにおかれても注意していただき感染対策をしていただければと思う。

第3回目ということで長時間になりますが、皆様のご意見いただきながら進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

3 会長挨拶

コロナも下火になったと思ったらまた増えている状況であります。今年もあと一カ月半で過ぎようとし、何だかコロナで終わってしまったような一年でありました。今日は、前回に引き続き多くのご意見をいただき、総合計画の後期5年間の項目について協議していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

4 協議事項 第2期八雲町総合計画基本計画の見直しについて

（1）基本目標2（八雲の豊かな資源を活用した産業振興）について

○質疑応答

【佐藤委員】

酪農経営について、飼料等の高騰などに関連するテレビ放送を見た。配合飼料の価格が国際情勢により高騰し、牛一頭育てるのに10万円多くかかるようになり、また、子牛の価格

下落があり、13万や14万で売っていた牛が5,000円となり、体重が少ない場合は1,000円や500円など販売価格が急落し、収入が非常に少なくなっている状況ということであった。

第一次産業は非常に大事なことで町としてバックアップしてほしい。町内の農業法人や個人農家など日夜頑張っているが、町としてどのような補助があるか、政策も含めて何を行っているのか。

【農林課長】

肥料・飼料の高騰対策についてですが、ウクライナの侵攻や円安の影響により、高騰・高止まりしている状況であり、農業経営が厳しくなっている。町としては、国等からの支援策が示され固まりつつあるので、動向をみながら、農協とどういった支援策が有効か検討し、危機を脱する支援策の推進を図っていきたい。

【佐藤委員】

状況を見て、手厚い助成なり方針を固めて進めていただきたい。

【長谷部委員】

地域資源を活用した商品開発の促進についてだが、八雲でも農産物や水産物などの特産品はあるが、以前「ほたてを食べたいのだが、どこで食べたら美味しい物を食べられますか」と、聞かれたことがあり回答に詰まった。地元食材を生かした商品づくりと、それを地元で提供できる仕組みづくりが大事であり、今後検討をお願いしたい。

主要施策3. 地域資源の保全と衛生管理の徹底について、ホタテを含めてだが、八雲町内での対EU輸出の水産加工場等は無かったことと認識しているが、海外に向けては当然必要なことであると考えており、これに対して支援や取組を考えているか教えて欲しい。

【商工観光労政課長】

地元産品を食べられる場所について、皆さんになかなか周知されていないということで、確かに担当課として感じているところであった。

近年では八雲町の観光パンフレットが更新されていなかったということで、今年度は地域おこし協力隊が主となって観光パンフレット「虹色マップ」を作成した。食に特化したマップも作成したが、まだまだ情報が不十分だと思っており、今後、観光物産協会との連携を密にして、PRできる媒体があるか含めて検討するとともに、どのように発信していくかが重要となると思っているため、重点的に連携を図り取り組んでいきたい。

【水産課長】

ホタテの輸出に係る衛生管理の関係ですが、ハサップ関係で加工場等に対する国の補助制度もあり、町内の事業者が希望する場合には、補助金の活用を行うように勧めていきたい。

【近藤委員】

八雲町は広大な森林を保有し、林業企業が日頃より尽力している状況である。国の補助によって高性能林業機械であるハーベスタ等が入っているが、林業は育てる段階で、下刈りという大変な作業がある。労働力が高齢化し若い人が入ってこないことで年々下刈りの面積をこなすのが困難になってきている。八雲町にも環境税が入っているがそれを活用して林業企業体への補助として、スマート林業等を進める政策等は反映されているか。

【農林課長】

森林環境譲与税についてですが、八雲町では私有林整備事業として下刈りや保育間伐等に活用している。また、木育事業として林業現場の見学会などに係る費用などに環境譲与税を活用している。下刈り等に使用する高性能の機械整備についても一部検討しており、また、さまざまな用途があり、公共施設の木質化等にも活用できるため、将来的な活用動向をみながら用途を検討していきたい。

【近藤委員】

町の商店街団体である八雲商工会についてですが、町から厚い支援を得て運営しているが、実情としてどこの商工会も事務局長のなり手がいない、職員が足りていないということで非常に困っている。八雲も事務局長が不在の状況である。これまでの商工会では課長クラスに相当する指導員がいて、そこが定年になると事務局長になるという流れとなっていたが、最近ものの考え方が変わり、定年とともに辞めていく流れとなっている。原因は収入の減が考えられるが、八雲商工会においても人材がいなく大変困っている。お金をくださいではなく、人材をまわしてほしい。

【岩村町長】

人材は大切であり、難しい問題である。町も募集を行っているがなかなか人材が揃わない状況であり、町としても商工会へ人材を出すことは大変難しい。退職した方についても個人の問題なので話をするのは難しい。可能性としては資金面で支援する方法があると思うが、商工会並びに商工会事業者と良い方法を考えたい。支援したい心はあるということだけはお伝えしたい。

【鎌田委員】

分野2水産業の振興の関係ですが、生産現場である漁協における漁業振興に関しては、他の自治体に比べ先んじて政策を先行していただいているが、主要施策3. 流通加工等の整備・充実では、水産加工業に踏み込んだ政策がないように感じる。生産現場と水産加工業というのは両輪ですので水産加工業にもある程度踏み込んだ政策を実現していただいた方が良いと感じている。

【水産課長】

水産加工業については先ほど衛生管理の話もあったが、水揚げから加工まで一体した施策をすることによって、安定したホタテの養殖等が出来ると考えているので、伺った意見を十分考えながら進めていきたいと思っている。

【鎌田委員】

水産加工業は重要な産業あり、多くの雇用も生み出している。漁業と一緒に水産加工業も執行していただきたい。

【小笠原委員】

農業分野において、担い手不足によりスマート農業を推進するという流れは一般的な話ではある。しかし、そうなると担い手、雇用が生まれにくいという、相反するものがありバランスをどう考えているか。

先ほど話があったように畜産・酪農の状況は、回復することが非常に困難であると思うほど厳しい状況である。しかし、有機畜産をやっていると飼料・肥料も使わず、全く影響がない。記載の農業分野の施策自体は他市町村でもあるような決まりきった感じの施策である。極端に有機農業を推進するような施策を八雲町の売りにしても良いくらい、今の畜産・酪農は厳しい状況であることをお伝えしたい。

また、クリーン農業はスマート農業と相反する関係であり、海外から穀物を運んで食べさせればクリーンにはならず、そのような関係をバイオマスプラントで発電しエネルギーを作るから良いということではなく、地場で穀物を生産する方がクリーン農業に近い。国の補助も解決策ではなく先延ばしの施策だと思っている。また、世界情勢的に直ぐには穀物の安定的な輸出、輸入ができる状況には戻らないことが想定される。チェンジするならこの時、このタイミングであり、少しでもチェンジする施策を関係課が考えた方が良いのではないか。難しい問題だと思うので、回答は得られなくても良い。

【農林課長】

参考にさせていただく。

（２）基本目標３（誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進）について

【長谷部委員】

分野１の主要施策１．健康管理体制の充実ですが、各種がん検診の周知徹底により早期発見に努めるのは確かに大事である。だが、高齢化社会となり、一生涯にがん罹患する確率は50%を超え、誰でもがんにかかってしまう可能性があるというのが現実である。罹ってしまった人をどのようにケアしているのか。「がんと共に生きる」という時代になってきた。

がんから回復された方にどのようなケアしていくのが非常に重要であり、発症者のケア、回復者のケアなど、地域リハビリテーション分野に手を差し伸べていくのが重要である。

主要施策 2. 心と体の健康づくりの推進ですが、「心の病」というがそんな人はいない。精神疾患はある。精神疾患は人口の 2%位いると思う。「心の病」社会情勢が変化している中でこの表現がどうなのか。「心の病」とは大正 11 年から言われているフレーズである。

分野 2 の主要施策 1. 医療サービスの充実ですが、「熊石国民健康保険病院は唯一の病院」と記載あるが、八雲総合病院も八雲町唯一の病院である。この表現はいかがなものかと思っている。

また、総合病院の経営体制の強化では、アドバイザー等の収入増対策で経営が良くなっているとは聞いているが、実際どのような取り組みがあり、どう対応してきたのか。

続いて、障がい者関係だが、緊急時の受け入れ態勢についてどのような課題があったのか教えていただきたい。また、障がい者団体への支援をどのように考えているのか合わせて教えていただきたい。

【保健福祉課長】

がんの予防の関係ですが、まずはならないことが最重要と考え、予防に重点を置いているが、委員が話されたとおり罹患後のケアも重要と考えている。保健所と連携をしながら患者や家族の方が、月一回程度で話し合えるような会を設けている。参加者が少ないということだが引き続き継続し、そのような場を提供していきたい。

精神疾患は町で把握している手帳を持っている方で 400 名前後ですが、手帳を持っていない方もいるのでもう少し多いものかと考えている。「心の病」の表現については、改めて考え方、表現など勉強させていただきたい。

障がいの関係ですが、緊急時の受け入れの課題だが、例えば障がいがある方で支援する親御さんがいるうちはいいが、将来的に支援者の方がいなくなってしまう場合にどうしていくか、障がい関係の事業者などと話を進め、様々なサービスの提供を通して、親元から離れても自立していけるよう考えながら進めている。緊急時ということで急遽一時的に住まわせる場所を提供しなければならない場合があり、ショートステイのような施設が町内にあれば良いのだが、現在はグループホームの事業者と日頃から情報交換しながら障がいがある方を一時的に住まわせることがある場合に協力していただき対応している。確かに特定の場所が決まっていないということが課題だが、事業者と協力や検討しながら対応していくことを進めています。

【熊石国民健康保険病院事務長】

「熊石地域唯一の病院」と表現しているが、その言葉のまま、熊石国保病院は他の病院

や診療所と 30 km 以上離れている。そのような地理的要因がある中で、地域住民のかかりつけ病院として、地域医療を維持していかなくてはならない。そのような地域での役割・機能を含め「熊石地域唯一」という言葉を選んでいるので、ご理解いただきたい。

【八雲総合病院事務長】

八雲総合病院におけるアドバイザー効果の関係ですが、収入増対策で一番大きいのは入院料の区分を検討することでありました。アドバイザーが入る前の入院料は急性期と回復期リハビリ、療養病棟と精神病棟であったが、病床機能を大胆に見直し、診療単価を上げるため、地域包括ケア病棟の入院料及び障がい者施設等病棟入院料の算定とした。人員をいかに効率的に病棟の中で配置をするかも十分にご教示いただいております、これまで難しかった加算も工夫して行っている。収入増へ繋げる診療報酬の見直しは大方終えており、2年に一度改定される診療報酬改定の中で今の入院料を維持できるよう努力をしていきたい。

【長谷部委員】

収入増ばかりでなく、サービス提供の改善など多岐にわたり提言あると思いますので、努力していただいてサービスの向上に努めていただきたい。

【阿部委員】

保健推進委員会の活動についてですが、長年にわたって結核の撲滅に関する福祉運動を続けている。昨年も町内会から保健推進委員会に対しての寄附が行われている。昨年で約 35 万円分が集まっている。その内、1/5 が活動に還元されるということで、保健福祉活動で使われている状況である。それも活動として良いが、日本人の死亡するがんの割合が極めて高い状況であり、昨年の厚労省の人口統計調査によれば 37 万人の方ががんで死んでいる。これは日本の死亡者の 1/4 が、がんでなくなっている状況である。結核予防活動は戦後ずっと行われてきており非常に大事であるが、2020 年の発症が 12,739 人、亡くなった方が 1,909 人で、がんで亡くなった方から見たら極めて少ない。結核が死の病であった時期から遠く離れてきている。歴史的な取り組みは尊重しつつ、今の課題であるがんの問題などについても行うなど、考え方や取り組み方を検討し方向転換をしてみたいはかがだろうか。

【保健福祉課長】

保健推進委員会の活動については継続しながら、がんの取組についても課内で検討はしていきたい。

(3) 基本目標 4 (ふるさとを築く教育の充実と文化・スポーツの振興) について

【佐藤委員】

令和6年に木彫り熊発祥の地100周年を迎える。現在、木彫り熊の伝承として公民館講座を行っているが、これには指導者が必要であり、今の指導者の方もご高齢になってきている。今から指導者の育成など、対策していく必要がある。先日の開発委員会では町長から東京では木彫り熊ブームがきているとの話があった。新聞や雑誌等でも多くの記事が制作者含め取り上げられている。指導者育成の対策についてお聞かせください。

熊石の無形民俗文化財「相沼奴」について、熊石第二中学校で伝承活動に取り組んでいたが、統合となってしまった。このような伝統文化の文化継承は非常に大事なことであり、今後どのように繋いでいくのか方針を伺いたい。

【社会教育課長】

木彫り熊の関係ですが、町外の皆様、また若い世代の方にもお越しいただいている状況である。町内でも様々な形で活動してきたことが今のブームにつながる動きとなったと感じている。木彫り熊を彫れる方の後継者育成ということですが、木彫り熊講座は平成14年度に休止となりましたが、平成25年度に講師を引き受けてくれる方が見つかリ再開し現在に至っている。今年度で10年目を迎えています。1年や2年で習得できる物でもなく、受講生を増やしながらまだまだ続けていかなければならない。講師の方の年齢もあるので、この講座を続けていくことと、講座が終わった期間でも受講生に関して講座室を開放し通年通して行えるよう支援していきたいと思っている。

【佐藤委員】

指導員の育成について、私として2つのアイデアがあり、1つ目はこのような伝承活動については、地域おこし協力隊の募集を行い採用条件として取り上げていくのも一つの案ではないか。

2つ目としては、テレビで事例を拝見したが、自治体自ら職員を育てて町おこしをやろうと決め、職員が先頭にたって行うというユニークな発想の事例があった。また、近隣の鹿部町の職員が第一次産業の漁業の働き手が困っているということで、副業を解禁し率先して手助けしようと、町民の目線に立った町長の決断が行われ第一次産業を守っている。そういう考えはどうでしょうか。

【教育長】

木彫り熊について社会的に反響いただいている中、今後の木彫り熊の政策について真剣に考えていただき大変ありがたく思う。指導者について、協力隊の募集を提案いただきましたが、私達としても可能性はあるなと判断しており検討している所であった。また木彫り熊講座の中で木彫りにかなり卓越した、大変技術が向上している方もいる。そういった人を見ながら指導者の確保を考えている状況であり、具体的に進めるような段階に入ってきた

い。

【岩村町長】

佐藤委員の話にあったとおり、地域の担い手のため職員の派遣が必要になる時期はいずれ来るかとも思っているが、まだまだ職員不足である。漁業者、農業者の担い手対策は各課で行っている所でもあるので、まずは職員の充実を図りながらそのような政策が必要となる時期も来るかも知れないと念頭に入れ進めていきたい。

【熊石教育事務所長】

相沼奴については、以前は4年に一回の例大祭で行っていた。また、アワビの里フェスティバルでも活動を行っていたが、コロナがあり長い期間、出番がない状況である。今後の展開として、学校に打診を行っているが、相沼奴以外にも泊川奴もあり、地域のバランスもある。学校教育での活動が厳しい状況と判断したが、来年度以降、試験的に関係人口の増加を見込んだ取組を検討しており、その中で保存会の方に協力をいただきながら、相沼奴を将来に向けて存続できるような形で残していくことを考えている。

【佐藤委員】

江差町では江差追分を、伝承活動を学校教育の一環として、学習の単位の中に入れていくようだが、そういうことも考えられるのではと思うがどうか。

【教育長】

結論としては可能だと思う。ただし、学校は地域とともにある開かれた学校であるため、地域の方の理解を得ながら進めている。総合的な学習の時間もあることから結論としては可能であると思うが、一番は地域の方々の想いを大切にしなければならないため、慎重に進めていきたい。

(4) 基本目標5（八雲の自立を実現する協働と行財政運営）について

【阿部委員】

分野3の主要施策4. 町民と議会の情報共有の充実について、変更はないとのことだが、YouTubeで本会議・臨時会を町民が見られるようになったのが平成30年からで、今年で4年目となった。しかし、すべての議事運営について町民が肌に触れて感じられるかという点で、全員協議会、常任委員会、特別委員会等はYouTubeでは公開されていない。そうなると町民は議事録の公開でしか知ることが出来ない状況だが、町のHPを確認したが令和4年度のすべての議事録がアップされていない状況である。町民がYouTubeで配信されていない全員協議会や常任委員会、特別委員会等を見ることが出来ないにしても、速やかに議事録をアップすることが町民に向けて「開かれた議会」ということになるのではないかと。また、遡

ると平成 25 年には議員等の発言を文章化する反訳システムを 551 万円で導入している。有効に生かされていれば速やかに文章化されて HP にアップされるはずが、10 年経った今でもそうではないのはなぜか。システム自体が古いものになってしまったのか。状況について報告をお願いしたい。今年に入ってから北海道新聞の報道で、4/18 に全員協議会の日本語学校の開設や、6/9 に熊石国保病院の 45 床から 30 床の問題、7/8 にはその病床問題について全員協議会で了承したという報道や、9/30 に二海サーモンについての全員協議会での了承など、いわゆる新聞報道でされている内容について、どこでどのような形で論議をされているか市民は触れることが出来ない。新聞報道で見出しを読むことが出来るがその後どうなっているのかがわからない。速やかに情報公開が行われるべきにも関わらず、また反訳システムがあるにも関わらず議事録が公開されていないことに何が問題なのかお聞かせ願いたい。

【議会議務局長】

ご指摘いただきましたとおりでございます。併せて弁解の余地がありませんが、議事録や会議録含め公開が遅れていることは事務局として重く受け止めている所です。令和 4 年度については定例会含め一切公開できていない状況ですが、現在作業を進めているところでございます。全員協議会、常任委員会含め、公開するはずだが作業が遅れていることが実体。この反訳システムを導入しているが、そのシステム自体が反訳を瞬時にできるものではないため、再度事務局で会議録の録音を聞きながら修正している。修正作業には会議の時間以上のものが必要になり、過去の分も遅れているのでその分も含め作業を進めているところで。誠に迷惑をお掛けしていることとお詫びするとともに、順次作業を進めて行きたいと思っておりますので、ご理解の程よろしくお願い致します。

【阿部委員】

議事録の公開が遅れている状況は理解できたが、この原因は何か。人員配置の不足なのか、議事録を反訳システムで起こしても再度書き換えていかなければならない問題もあるということでは労力がかかるということならば、いわゆる外注ということが検討出来ないか。

【議会議務局長】

過去に外注していた時期もあるが、反訳システムを導入するということで外注をやめた経緯ではないかと思っている。今後これを解消するにあたって、作業の内容等を事務局内で検討して早い段階で解消するよう努力をしていきたい。

5 その他

【事務局より】

後期基本計画の策定にあたり、多くのご意見をいただきありがとうございました。

協議いただいた取組の基本的方向については、後期計画素案や事業を進める中での大項目となります。いただいたご意見を鑑みますと、基本的方向を大きく変更する必要はないものと考えていますが、非常に貴重なご意見もございましたので、計画策定後、事業を進める上でもいただいたご意見を検討しながら、よりよい事業となるよう改善策を練りながら進めて参ります。

6 閉会

令和4年度第3回八雲町総合開発委員会出席者名簿

No.	区分	氏名	所属	出欠	備考
1	委員	大野 尚司	八雲町町内会等連絡協議会	○	
2	委員	井口 啓吉	熊石町町内会等連絡協議会	○	
3	委員	近藤 安幸	八雲商工会	○	
4	委員	稲見 敦子	八雲商工会女性部	欠	
5	委員	本田 貴臣	八雲観光物産協会	欠	
6	委員	舟田 進一	新函館農業協同組合北渡島運営委員会	欠	
7	委員	梶田 孝女	JA新はこだて女性部八雲支店女性部	○	
8	委員	小川 勝士	八雲町漁業協同組合	欠	
9	委員	久保 扶佐子	八雲町漁業協同組合女性部	○	
10	委員	鎌田 和弘	落部漁業協同組合	○	
11	委員	木村 滋	ひやま漁業協同組合熊石支所	○	
12	委員	能代 常男	八雲町社会福祉協議会	○	
13	委員	浅沼 真	連合北海道八雲地区連合会	○	
14	委員	西田 浩人	八雲町校長会	○	
15	委員	阿部 政邦	八雲町体育協会	○	
16	委員	上田 倫央	北海道労働金庫八雲支店	○	
17	委員	小笠原 英毅	北里大学獣医学部	○	
18	委員	青沼 千鶴	司法書士・行政書士やまびこ事務所	○	
19	委員	長谷部 修	一般公募	○	
20	委員	寺田 裕	一般公募	欠	
21	委員	佐藤 馨	一般公募	○	
22	委員	東間 和浩	一般公募	欠	
23	町	岩村 克詔	町長	○	
24	町	成田 耕治	副町長	○	
25	町	土井 寿彦	教育長	○	
26	町	竹内 友身	総務課長	○	
27	町	川崎 芳則	財務課長	○	
28	町	石坂 浩太郎	農林課長	○	
29	町	田村 春夫	水産課長	○	
30	町	井口 貴光	商工観光労政課長	○	
31	町	田村 敏哉	サーモン推進室長	○	
32	町	石黒 陽子	住民生活課長	○	
33	町	戸田 淳	保健福祉課長	○	
34	町	野口 義人	地域振興課長	○	
35	町	北川 正敏	住民サービス課長	○	
36	町	吉田 一久	産業課長	○	
37	町	三澤 聡	議会事務局長	○	
38	町	三坂 亮司	学校教育課長	○	
39	町	佐藤 真理子	社会教育課長	○	
40	町	伊藤 勝	体育課長	○	
41	町	竹内 伸大	八雲総合病院事務長	○	
42	町	福原 光一	熊石国民健康保険病院事務長	○	
43	町	川口 拓也	政策推進課長	○	
44	町	上野 誠	政策推進課長補佐	○	
45	町	右門 真治	政策推進課政策企画係長	○	
46	町	長谷川 佳洋	政策推進課企画係主任	○	